増補
江戸名所記
五ノ十
特別
ル4
3698
6

門 月 4
號 3698
6

早稲田大學圖書館
昭25.4.12
購入

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と[illegible]世にあらそいづることあるべきなれども[illegible]

[illegible]世の中にあるべきにあらず。[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

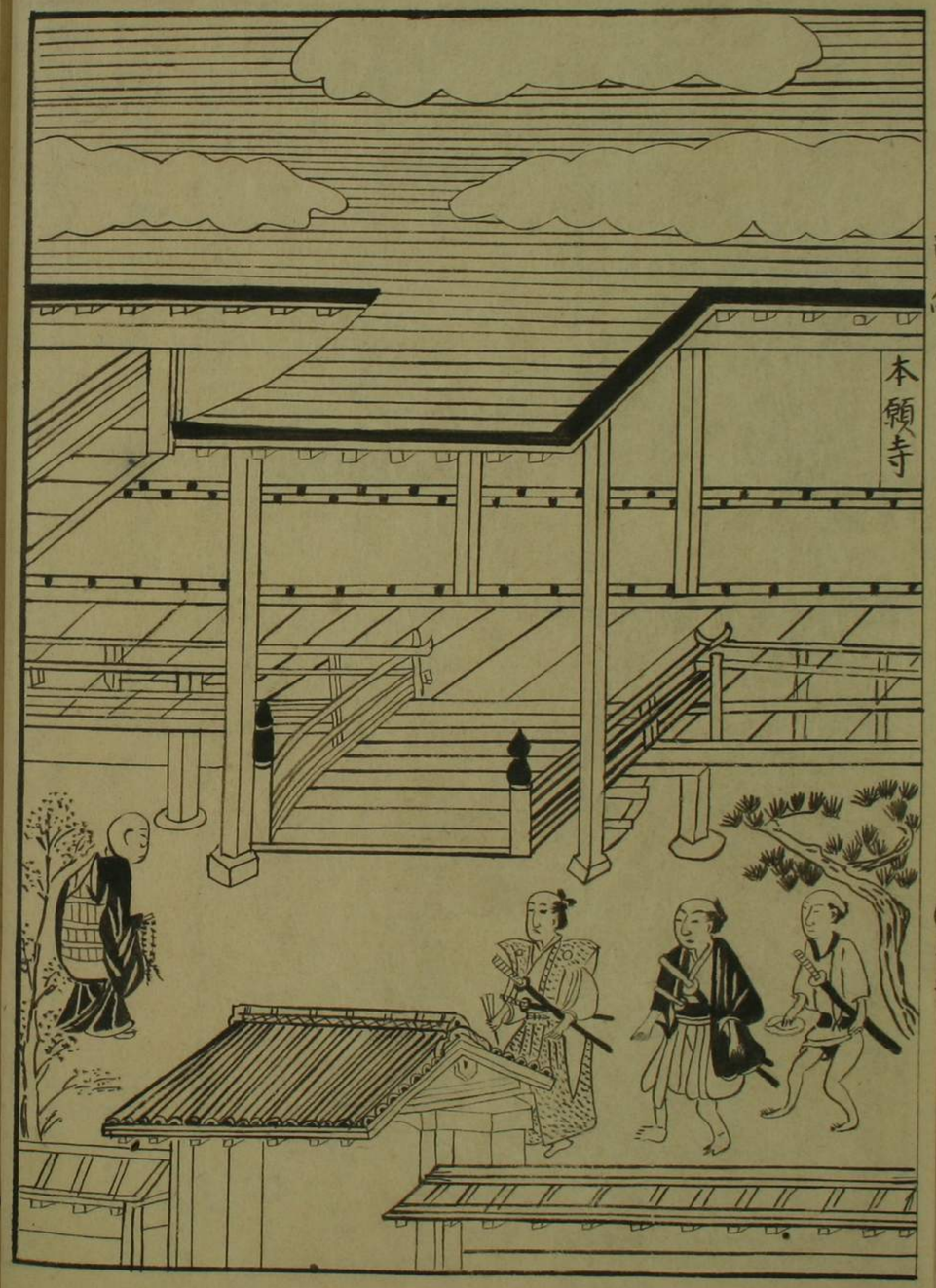
[illegible]

[illegible]

[illegible]の花の香ふかうかく。[illegible]と[illegible]と。天神の御寶前より[illegible]

同さ[illegible]の。[illegible]連歌。[illegible]。[illegible]。[illegible]

まち桂こそ。そもそも刀の名を。木枯と名付て指りう。そ所刑部卿平の忠盛卿ハ。伊勢守ふ海て。ちゝ迄。けゝをやのきゝて。彼猟師とめ。らせ。菜。云乃年貢こ。ふ。へて。そゝ迄ハ。ハ家富栄て。いよ〳〵た神文の御利生を。たゝとゝ。なりう。忠盛ハ。ふ海ふ詣りて後。六波羅ハ池。出云。ゆく。夜ゝて。前後とも。波ゝ。ゆゝて。枕ハい。そゝ迄に。大蛇池。ゆゝて。遊まる。彼本ゝ。風とぬけて。かゝとゝ。ゆゝ。を。忠盛きて。ゆゝ。ゆきあゝて見あた。刀ハぬけて。流ハ大蛇。向ひあゝ。大蛇ハ。剣よをそ迄て。池ふ詣り。ふ。ふ。ふ



乃物也　東照権現様御生世の時。京都本願寺乃門徒。光佐教如上人より出羽を乃国沢へ。本願寺上人の御弟と寄附あるべしとて上洛せしめ給ふる。そもそも本願寺教如上人と。おとなく弟なる。教如上人の門徒させて。秀吉公に。押籠らせ給ふるとらひとして。教如上人の門徒ふなきれ。教如さうれ屋敷に。押籠らせ給ふるとさきだうゆきたにおくれ。東照権現様乃御時に。乃順如上人と。おとなくの門徒と云てくろう。六条室町乃もとに。御堂屋敷拝領みて。新町と云て。寺内と成し時なり。乃本願寺乃なを。神田に本寺を立らるべきよし。訴訟のうへ。江戸の神田ふ。寺代拝領し一宇と建立仕りよ。今ハ大きにたんちゃうなるべ。京都の本願

寺なり。堂元一丈八。かるく梅丈にさゝ下されて。江戸中乃つゞを勧化せゝめる。寺院乃坊舎。回列度の御仕を勤む。時麿ゝ年乃四禄なり。しかるよ寺化を勧ゝあゝ。寺院を造ゝせゝまゝ。扨ちぐゝくはさんえんぷふを

ちゝゝとん居るあり。ひきことのまゝ。巳ゝ猿上るをえて猿祖ゝ。光ゝゝゝゝ中部ゝ。ゝとゝとゝんせきやゝあゝん

第十五

三十三間堂附女人寺孫記　矢数の初

西乃方の小橋をゝゝて。三十三間堂へ行。是ハ京都乃堂形也柳京都乃三十三間堂れおゝゝ。ゝゝゝ。ゝく後る羽院ひとゝの出家ゝゝゝ。風流の小哭ゝゝゝの本に。三十三間乃堂をたゝ一千一体の観音をたゝへゝり。法住寺殿と名付ゝ。後崇徳院の時。保元義元二年三月十三日に。勅願の供養とゝく

形ふ。導師ハ。天台座主。東陽坊。忠尋僧正。上ハ一人三公。相国雲客。下ハ洛中名士乃ゝ賤上下。ゝゝ集りに。導師ゝる座ゝ乃ゝゝ。三時ゝゝれ説法ゝ。稚年ゝ行ゝ。ゝゝ。数万の観音の御名をゝゝ。形へて。数万の観音のゝゝ。ゝを流せ。かゝて初形の白に。元病悪除身心安楽と。ゝゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ。

八坂乃宮ニ詠めく引を射。くふさに二十三間堂小屋ニ入
ゆくくりやゆくく射ゆくくを事ところ。指矢のとうり
松平下総の方守乃家来。川瀬権門。を矢の数八百名作門
村田与四郎。矢数の多くめと海ニ入るに不及してきき
清兵衛ニ矢数と記して。仍前ニ勝
一通矢五十一筋
一日千七百三十筋
一日千七百四十二筋
一日千七百四十六筋
一日千八百五十二筋
一日千九百二十一筋

一日千七百八十四筋
一日二千七百八十四筋
一日二千八百三十五筋
一日三千百五十一筋
一日三千七百七十五筋
一日三千八百八十三筋
一日四千三百十二筋
一日五千四十二筋
一日五千百九十七筋
一日五千九百四十四筋
一日六千百五十四筋
一日六千三百二十三筋

一日二千五十四筋
一日二千八百三十五筋
一日三千百五十一筋
一日三千七百七十五筋
一日三千八百八十三筋
一日四千三百十二筋
一日五千四十二筋
一日五千百九十七筋
一日五千九百四十四筋
一日六千百五十四筋
一日六千三百二十三筋

清兵衛
藤合孫九郎
吉田大内蔵
下村忠右衛門
藤合孫九郎
山田牧内

糟谷左近
枚山三右衛門
大橋長兵衛
立山八右衛門
枚山三右衛門
吉井助之丞
長屋六左衛門
枚山三右衛門
立山八右衛門
長屋六左衛門
立山八右衛門
長屋六左衛門

一日六千三百四十三節

一日六千六百六十六節

一日七千七十七節

一日八千節

一日八千百五十節

ひだの八ツ矢数八。貞享三丙寅年四月はじめ。京童養田といふ人。四条の勧進。高さ七尺八千と書に立りそ。洛の保元の昔八。為義の弓場にとれ清盛とも言ひ。義朝とも言ふ。彼の流の中。彼の矢さきにみく。変化のものを射留る。大功ありし事。ハ。これにてうたがひ武家にとてもやんごとなき火。今爰に堂の内。彼の矢さきに千手観音只一体立給ふ。堂のうしろにく。ゆくとハ射ぬかなり

吉右衛門喜太郎

星野勘左衛門

葛西菊右衛門

星野勘左衛門

和佐大八郎

諸国巡礼。堂形をそけいこゝろに。百ゑハとてなぐ〳〵。ぐゞ迄
てゝ〳〵ゝ。京都の堂にく〳〵。大ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ。それ
に数乃うぎをゝ〳〵ゝ。金乃ゝ栄牌をゝ〳〵ゝ。敵つ乃ゝ級
ふの行し。鎧のぐ〳〵ゝ〳〵ゝ。ぶ。弦うるてぐさこゝ。匂海
観世音。大悲乃弓に。智恵の矢をてけ〳〵。ゝ魔の軍を彼り
ゝ〳〵ゝ。ゝ堂ゝ〳〵ゝ弓射ゝ。友ゝ〳〵ゝ笑ゝ
恵迦ゝ。智恵の矢数を千ゝ。仏と堂〳〵。居ゝ〳〵ゝ
扇ゝ〳〵ゝ。ゝ〳〵ゝ。ゝ〳〵ゝ。

第十七　海禅寺

をゝ山の麓に海禅寺につくり。是ハ桓武天皇六代の後裔平親王将門総州相馬の郡にをこり。剣を帯して所々。朱雀院の時天慶三年に勅命のをりて。俵藤太秀郷に。将門誅せらるゝを嘆。堂塔伽藍悉大破ふるびさなから柳のみとなり。うき世の住もとゝまりて。年〻荒れ果のこるばかりとなり。こゝに京ゝとゝぶらとゝとゝとゝを。貴ふ如心寺の流下。貴賤尊崇。いくばくかのあらはして。地をうしし湯殿乃ゝゝゝにおとしむ　東照権現様ハ世の財。さしをめぐらんをもあひ住僧乃名を尚ゝに。貴賤と崇へなる　権現様おわせゝゝ。名ハ少をゝびゝ。湯ふ寺の面乃ゝとふ義ハ世ゝ。ひ寺ふゝ湯ゝゝ。大きに

重ゝゝゝを。ゝゝゝ

坊舎をつくり、孫、弟子、奇驚さんだゆ、の御やりを。年去こし
まう。是天をるまし天慶地獄をかぶ、おく。御人まさに
たて堂塔ゆ、ぶ、てぶき。坊舎をつくること、これよりはかり、
寺号院号をこのうへ。世よ知人をあつりり。南代が
五世ん前乃師と。芸人院よ御家をたて
ぶく名利の思いとのづき。こうちゆへに御乃心ざしを敬朝
あハ法の御行をはとあ。夕新ゆハ歓法法堂の庫よ座して
おこなひ文をとる事を。御不よ乃芸に。八旬斗
乃老翁。怠惰として事り弱ひ。おとてにこあ分多をあ
芸之命よ語りてのまく。我ハ芸命ごとあるゞ。御志ば
我芸と言ゆ。祈ぐく法ちと乗臭して。拝ゝあゝよと御
ありとて。芸ハ命さめう。御命夫芸乃つげ

心肝小驚て。ごゞく涙あとも。さまとも心ふのゝ法を。人に
ゆゝ事を。芸世乃人命ハ。歓ひをおこしはとしゝ夫芸
れとあぎりてしらんをおそらく。ゝ。比叡山小乃行。正覚坊の探究。蒙慶僧心にまゝく
いゝて。比叡山小乃行。正覚坊の探究。蒙慶僧心にまゝく
なりて。芸恵のゝを行り山。名小山寺院号の寺号院号
山号をて。江小山寺院号の寺と号て。
大悲菩乃月新。清浄信力のあふやう。命通自生の
弟子ハ渇仰御像の相ふ菩。ゝて。千眼のゆ。
宝業示能乃利益をあ。
弘誓深如海の弟法をあゝを。御よ開拓救世の法方使。
てゝ知ものゝゝ
高ゝきて高の山流ゆく。芸ハ清乃寺乃たゝとゝ

第十九　昊山寺附諸檀林

そもそも右の寺へ行て。昊山寺へ。是ハ大超上人乃冥基也。その
ゆゑ湯殿山よりの。此麓三ケの回禄にて。ほろびさて。是
を昊寺十八ケ寺の。檀林乃因なるが。いかなる所也や。世界に
かくれなし。かゝて数年中絶なるよ　南部軍板はめ〻保
〻〻せのしく。たゝ〻〻〻〻。おとなせ〻〻。〻〻〻をハたゞし
めるなり。そゞろにいとなし。古経ふけまとゝ。黄ふ三帖
檀林ふかせ〻〻。負笈三百才年〻〻。檀林如う
開山乃。大超し。徳〻〻〻〻

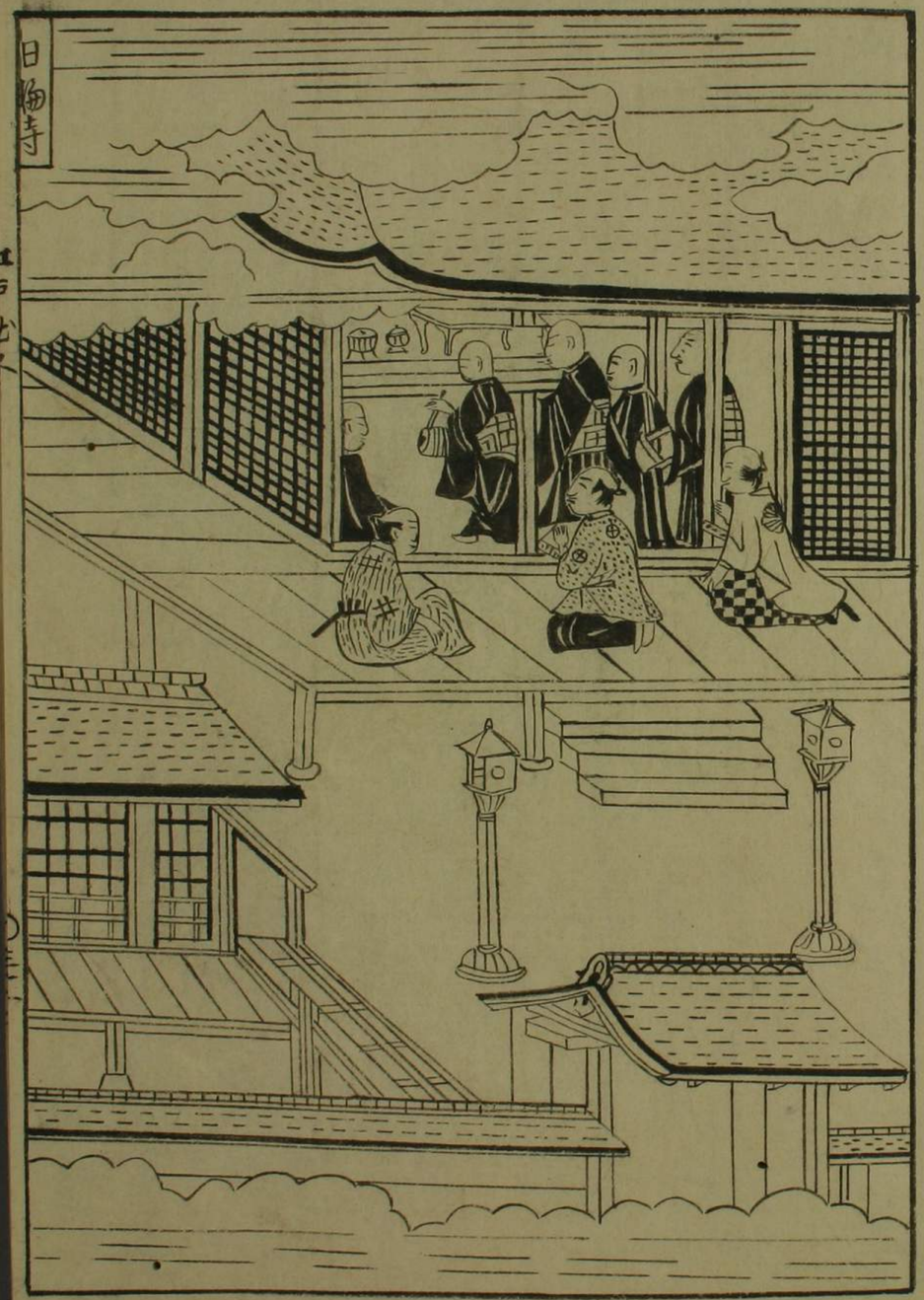
○江戸城　　正定山大念寺　　開山慶岩上人
○新田　　義重山大光院　　開山呑龍上人
○館林　　終南山善導寺　　開山幡隨上人
○淺草　　靈山寺　　開山大超上人

右〻通少々仏像。蓮社号。叡号。志ゝざる記さぐし

[第二十]　東光院乃藥師

第三。醫王寺。東光院ハ。慈覺大師乃ゆ第創として。弓密二教たゝふひろまると。総宗一百八十寺の拠本寺如ゆ。ゆ本なる。春日乃淨瑠璃として。東方淨瑠璃世界の教主。第師醫王の形像。ゝ昔。春田道灌。ゆ本なると崇なり。江城乃鬼門よゝて。利生のまゝとあゝに　檜原ゆ城乃ゆ。ゆゝなれゆ代ゆと。特あゞめさせ給ふ。ゆゝ〻〻と。

王ゝ時乃院えにおろせて。ゆ厨中にして。毎年ゆ正月九日ゆ八大菩薩若を。將讀せ〻め〻。江城長久の世ゆ祈祷ゆゝ。ゝ時ゝ。今ゆ常龍橋のゆの地ゆゝゝと。江城ゆ中にゆゝんざゆゝに住て。ゝを傳馬町に引移さ〻てゝ。寺院いゝを入ゞゝ。樹木精をあらゝひろゝと。面のゝゆ回禄よ。ゝゝ〻焼ゝゝて。ゝゝたゝゆゝゝの茅師と。智境大師ゆ仏像乃不動ゝる美言学ゆの仏ゝゝ。ゝゝゝ。乃ゝゝ。ゝゝ。ゝゝゝ



はぶそうの八のこ。東光院ゆゑ。藥師如来と。云ふるじ

第廿七

日輪寺附一遍上人

日輪寺とは。時宗也。はぶそうの安阿弥仏。立像の仏殿なり。そもそもこの寺は。柳原ちまの内。とと橋ちかきを。明徳二年乃以後。けふくうつさる。さきへは宗祇法師。乃ふ家にあり。同山を一遍上人とぞ。上人八伊豫国主河野の七男。通廣うの史。建長十年。十一歳丹くあり家。建治二年熊野に詣。神勅と称して。法号を修行。六十万人交定往生の札を。あまねく衆生にふひろめ給ふ。なほ乃聖とも如来代くの修行を。他阿弥陀仏と名付。諸ふ寺山。京都の極楽乃額を。六字の名号に書くみ。和泉或紀の七昊ぶを巡ひ給ふとや。そも代くの修行に。りき加ゆ。或ハ賀久

あく。さるとうゆうまていに熱心をこめ。はるかさるとうぐ
甲今にのこるとうわ。或ハ柳の せいあ〜ハまて道ちゑ〜ト云ふと
ゑ。はるよ柳の名を拾ひ柳とりゆまて名ハ本とぬ。其外も
数ふれるうけ名りゑ〜とちがきくるふ男ゑて。扨彼開山の
一遍上人ハ。正應二己丑年八月廿三日ふ。此年五十一歳ニ入寂也

一遍ちたもうゑぬよ拾毎日。海寺ニまて乃。今伝ふのとし

第廿二　誓願寺

ゑ東乃方へ行て。拾て死ちゑ。此寺ハそのゑ〜れ横國小田原ゑ
見蓮社東巻上人の冥基ニ。そ〜ハと人爰恵乃事ゑ〜
春負と云る僧。武州乃秩父ゑて。沸長三尺の弥陀の形像
を守まり。爰南寺の此本尊とせ〜る。是毒日乃沸仏ニ
成よ殊勝の霊仏寄特乃ゑる容也。ゑんまハ海ゑ〜たゑ〜と

拾めていよ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜万字の脳れあ〜ゑ。猛智系明の月の
光ゑ〜ゑ〜。千幅乃あ〜ゑ〜の下ゑて。庭巌竭七の花
乃白ひ。ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ。此れ白ひ。ゑ〜ゑ〜ゑ〜ゑ〜